

令和 3年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		公共交通運行事業	担当課	都市計画課
総合計画	政策	快適に暮らせるまち	計画期間	平成13年度～
	施策	道路網・公共交通体系の整備	種別	任意の事務
	基本事業	公共交通網の充実	市民協働	企画立案への参画
予算科目コード		01-080401-09 単独	根拠法令・条例等	守谷市地域公共交通活性化協議会設置要綱、守谷市ノンステップバス導入事業費補助金交付要綱

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
平成8年9月に運行開始した福祉循環バスを平成13年10月からコミュニティバスに形態変更して運行していたが、様々な課題が挙がり、平成20年6月に「守谷市循環バスのあり方等研究会」を設置し、今後のバスのあり方等について検討した。その結果、路線バスとコミュニティバスの補完関係を明確にし、連携の強化を目的として平成20年度に「守谷市地域公共交通活性化協議会」を設置し、協議会を主体に公共交通の見直しに取り組み、平成22年度からモコバスを運行した。	平成31年4月1日から1年間行った公共交通再編による実証実験の要望や利用実績等を踏まえ、令和3年度は、モコバスの再編を段階的に行う。モコバスは、令和2年度に新車両を2台導入し、関東鉄道（株）と8年のリース契約をした（国の補助金「都市構造再編集集中支援事業費補助金」が、3か年交付される）。令和3年度も国の補助金を活用し、2ルートで運行を行うが、ルートの見直しを検討し再編に向けた準備（バス停新設等）も行う。 デマンド乗合交通は、利用向上を図るため令和2年度に平日の運行台数を3台から4台へ増車し、守谷タクシー(有)、関東鉄道南タクシー（株）、小川交通(有)、（株）守谷福祉協会の4社（各社1台）で運行する。 経費については、守谷市地域公共交通活性化協議会へ負担金として支出する。 新規として、新型コロナウイルスの感染拡大により大きな影響を受けた関東鉄道常総線に対し、沿線市と協調して安全設備整備のための補助（公共交通機関維持のための財政的支援）を行う。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
効率的で利便性の高い「将来にわたって持続可能な公共交通網の形成」を目指す。	
（参考）基本事業の目指す姿	
バス、鉄道等の公共交通による快適な移動を確保する。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
・市内公共交通再編による実証実験の検証（モコバス、デマンド乗合交通） ・モコバス車両買換え（R2.10月～運行開始に向けて）	・平成30年7月に策定した、守谷市地域公共交通網形成計画に基づき、令和元年度の市内公共交通再編による実証実験検証の調査結果を図るための公共交通活性化協議会の実施。 【モコバス】 4月～6月 データ分析 実証実験の検証 6月～8月 ルート案の提案、関係機関との調整 10月～ 新ルート再編 【デマンド乗合交通】 4月～6月 実証実験の検証 6月～8月 関係機関との調整 9月～ 検証に基づく運行
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
・市内公共交通再編による市民等の要望、意見およびデータの分析を行い、守谷市地域公共交通活性化協議会（事務局：都市計画課）で検証を行う。 ・モコバス：ルート再編 ・デマンド乗合交通：適正な運行時間、台数、予算 ・交通ブック作成：ダイヤ構成（モコバス、路線バス、デマンド利用）	【協議会】 R2.5月中旬：第1回 R2.7～8月頃：第2回 R2.12月頃：第3回 【分科会】 案件により随時開催予定
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☐ 維持 ☐ 削減	

R02年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（R03年度の振り返り）	
R02年度の評価（課題）	R03年度の取組（評価、課題への対応）
モコバスは、令和元年度と同様に2ルートで運行し新たにバス停を新設したほか、車両の老朽化に伴い、国庫補助事業を活用して新車両を2台導入し、利用向上に努めた。 デマンド乗合交通は、令和2年度から本格運行を開始し、利用者の増加に対応するため平日の運行車両を1台増車した（3台から4台）。 また、令和2年度はコロナ禍により大きな影響を受けた交通事業者（関東鉄道、路線バス、貸切バス、タクシー）に対して緊急支援金総額9,474,843円を交付した。 次年度も、引き続き公共交通の利用向上を図る必要があり、コロナ禍の状況によっては、事業者に対する継続支援を検討する必要がある	モコバスは、引き続き2ルートで運行し、利用者が多いバス停にベンチ（6台）を設置し利便性向上を図った。デマンド乗合交通についても、昨年度と同様に4台で運行し、利用者の増加に対応するとともに利用マナーを徹底させるため利用規定の見直しを行った。 また、令和3年度もコロナ禍により大きな影響を受けた交通事業者（路線バス、貸切バス、タクシー、地域鉄道）に対する緊急支援を継続し、令和3年度は新たに運転代行事業者も対象として総額9,171,980円を交付した。さらに、関東鉄道常総線に対し、沿線市と協調して安全設備整備のための補助金5,415,000円（公共交通機関維持のための財政的支援）を交付した。

評価（指標の推移、今後の方向性）							
指標名	基準値（H26）	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度	R03年度	目標値（R03）
モコバスの年間利用者数（人）	138, 243. 00	140, 400. 00	139, 057. 00	54, 770. 00	39, 591. 00	47, 514. 00	57, 500. 00
デマンド乗合交通の年間利用者数（人）	0. 00	0. 00	0. 00	13, 274. 00	13, 580. 00	16, 419. 00	17, 000. 00
成果の動向（→その理由）							
■ 向上 □ 横ばい □ 低下	モコバス、デマンド乗合交通ともに、新型コロナウイルス感染症の影響により利用者の減少傾向が続いていたが、令和3年度は令和2年度より利用者が増加した。						
今後の事業の方向性（→その理由）							
□ 拡大 □ 縮小 □ 維持	■ 改善・効率化 □ 統合 □ 廃止・終了	交通空白地域（高野地区）を改善するため、モコバスのルートの見直しが必要であり、新ルート再編に向けて引き続き検討・協議を行う。デマンド乗合交通については、予約が集中することによりお断り件数が増加している時間帯が生じているため、対応を検討し効率化を図る。					

コストの推移						
項目		R01年度決算	R02年度決算	R03年度決算	R04年度予算	R05年度見込
事業費	計	55,450	77,151	84,280	91,816	80,605
	国・県支出金	0	12,325	11,647	1,650	1,650
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	11,911	0
	一般財源	55,450	64,826	72,633	78,255	78,955
正職員人工数（時間数）		3,526.00	1,661.00	1,406.00	0.00	0.00
正職員人件費		14,467	6,724	5,440	0	0
トータルコスト		69,917	83,875	89,720	91,816	80,605